

「(一面より、)といふ質問に對しても、亦同様に對すると思ふ。況や歐米諸國の、對日關係等について、何等の關心をもつて居ない讀者が、眞に少ない事と思ふ。

言論は自由である。ナチスや、フアッシュヨや、將たソ聯の如く、之を制限し、彈壓する事は、決して好まじき事でない事は勿論であるが、國家の非常時と相俟つて、國民の教養は、刻下の一大急務である。各種學校に於ては、教育勸語の、聖旨を精神とする教育を、施してあるのであるが、それさへも記者の所見を以てすれば、制度上方法上に、幾

多の缺陷がある爲に、十分に其目的を達する能はざる現状にあると思ふ。それさへあるに、學校を終へたる一般國民の、生活上教養上重大なる關係影響を有する我等の各新聞は、茲に大に鑑みる處あつて、然るべきと痛感せらるゝのである。又一面之を監督する立場にある當局に於ても、十分に考慮すべきであると思はれる。云ふ迄もなく、國家あつての國民であり、新聞である。國民協力して、かゝる大問題に對しては、大に研鑽して善處すべきである。と衷心より考へられるのである。

く積立てる事であつて、之に關する一切の方法手續等々を、遺漏なく詳細に規定せられてある。されば其労働者は退職する際に限り右積立金并に手當金を受け取られる事になり、生活安定の資金を得られる譯で、眞に勞資協定勞務者優遇の規定であると思はれる。又同時に休業扶助料并に障害扶助料の改正もあつたので、磐城炭礦を始め、各炭礦に於ては、之が實施上についで、それ、研究準備中である。

六、同青年會 (二日) 會場 淺野翁頌館

村會

舊臘十八日開會、村議大越勝之助氏の死亡、同小野昇氏の北海道轉出等の報告があつた。而して協議會に於て學校増築の件を協議した。

御殿納稅組合

同組合に於ては、他の組合同様好成績を擧げつゝあるが、事局に鑑み、新年宴會を廢して、中央園内に納稅の二字を、其兩側に「納稅上部に内郷村、下部に御殿納稅組合の文字を染めぬきたる前垂を作製し、之を全組合員に配付して、其目的の徹底を期した。

少年就職希望

平町職業紹介所では、目下今春卒業する小學兒童の就職斡旋中であるが、本村よりの志望者は、一〇二人の多數に達し、内男七八人、女二四人の由である。

磐城炭礦のボーナス

磐城炭礦に於ては、舊臘二十五日、役員は八割乃至十割、一般従業員は、酒肴料の形式を以て、それ、稼働賃銀に應じて支給せられ住吉坑や綴坑の出水で、聊か沈鬱的であつた全山をして、一陽來復の活氣を呈し新年を迎へた。

退職積立金及手當法

本年一月一日より實施せらるゝ事となつた、工場及礦業に關する同法は、昨年中法律第四十五號、勅令第四百十四號及内務省令第四百六號を以て、それ、發令せられてあるが、其骨子とせる處は、事業主は労働者の賃金中より其百分の二に相當する金額を各労働者に代り其名義を以て退職積立金として積立てる事、同時に、其事業者は毎年一回以上一定の期間末に於ける勞

働者の其期間中の賃金の百分の二に相當する金額を退職手當積立金として遲滞な

拜啓 寒冷の候愈々御清祥の段奉賀候陳者去る十七日弊所綴坑本坑一部出水の際には多大の御同情を賜り早速御見舞を辱し御芳志誠に進捗し難く厚く御禮申上候 幸ひ防水ダム作業は順調に進行し被害を右一部に極限し得候事は之れ偏へに各位御同情御聲援の賜と深く感謝罷在候 尙被害方面を除き他方面は從前通り操業致し居候間何卒御安心被下度候 實は拜趨の上御挨拶可申上管に御座候へ共不取敢書中御禮申述度如斯御座候 勿々

昭和十一年十二月二十八日 礦業所長 菅原萬治郎

一、役場 午前八時
二、學校 同 九時
三、磐城炭礦役員 同 十時
四、同役付諸員 同 十一時
五、會場 淺野翁頌館
六、同従業員 同 八時半
七、綴山神社 同
八、高坂山神社 同
九、内郷山神社 同

内郷村助成會

同會に於ては、同情週間たる十二月十五日より一週間を以て、全村百余名の委員が總動員して、會費として白米一升以上の、同情金を徵集して、舊年末に於て之が給與を行ふ方針を立てた。其詳細は二月號に報告する事とした。

匿名の美舉

磐城内郷病院の産婆安齋の子女史は金一封、町田坑職工岩崎義美氏は糯米一袋を、因窮者へ給與方を、本

教育制度改革概論

矢野 恒太 大内 民恵 著

(四六版二二頁 定價五十錢 郵稅六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理を實際に、歴史を實驗から新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現れず。

我國教育學界の權威

前京大總長小西實直博士

書を密せて曰く、多年、御體験下實地ノ御試練ニ基ク眞摯ノ大精神ヲ拜味仕リ不恩感激ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社

東京東區三丁目

取次所 内郷村報社

黒井將軍訪問記

第二磐城炭礦 濱崎 弘喜

朝の新聞は、其日五時頃御歸邸になられた様に報じてありました。尙將軍は、十二月一日附で御見舞狀を差上げました。喜多兩兒各方面にもそれ、送附させます十二月二日

いたします。送附の方は今年一ぱかりで牧手の人達もよきな方には馬給當を大盛でふかしてやつて居ります。此書を試食するの密で、お役目でもあり、公然の秘密でも

開拓記録

北道十勝國上川郡 清水町 清水山莊

大内

きみ 一郎

拜啓 長い間御無沙汰いたしました。先日はお母上様始め、私にま...

拜啓 益々御清祥賀し奉ります。過日は上等なツヤンパリーを...

外山拓殖部長の御書簡 (一) 郡の道民食糧意見に對して

拜復 御芳書難有拜承任候。御尊父様よりは内郷村報御惠送頂候...

本行は内郷村報の事業に對して、其の社説は手紙に對する返...

拜啓 昨日鈴木卯平治様同長市様から柿一箱づつ、平窪からは梨二...

夢笛吟社 (新年抄) 元旦や雪にあげゆく大連屋...

本行は内郷村報の事業に對して、其の社説は手紙に對する返...

内郷村報の 六大使命

本行は内郷村報の事業に對して、其の社説は手紙に對する返...

内郷村報の 六大使命